

10:1 アハブにはサマリアに七十人の子どもがあった。エフーは手紙を書いてサマリアに送り、イズレエルの長たちや長老たち、および、アハブの子の養育係たちにこう伝えた。

10:2 「この手紙が届いたら、あなたがたのところに、あなたがたの主君の子どもたちがいて、戦車や馬も、城壁のある町や武器も、あなたがたのところにあるのだから、すぐ、
10:3 あなたがたの主君の子どもの中から最も善良で真っ直ぐな人物を選んで、その父の王座に就かせ、あなたがたの主君の家のために戦え。」

10:4 彼らは非常に恐れて言った。「二人の王たちでさえ、彼に当たることができなかったのに、どうしてこのわれわれが当たることができるだろうか。」

10:5 そこで、宮廷長官、町のつかさ、長老たち、および養育係たちは、エフーに人を送って言った。「私どもはあなたのしもべです。あなたが私どもにお命じになることは何でもいたしますが、だれも王に立てるつもりはありません。あなたのお気に召すようにしてください。」

10:6 エフーは再び彼らに手紙を書いてこう言った。「もしあなたがたが私に味方し、私の声に聞くのなら、あなたがたの主君の子どもたちの首を取り、明日の今ごろ、イズレエルの私のもとに持って来るように。」そのころ、王の子どもたち七十人は、彼らを養育していた町のおもだった人たちのもとにいた。

10:7 その手紙が彼らに届くと、彼らは王の子どもたちを捕らえ、その七十人を切り殺し、その首をいくつかのかごに入れ、それをイズ

レエルのエフーのもとに送り届けた。

10:8 使者が来て、「彼らは王の子どもたちの首を持って参りました」とエフーに報告した。すると彼は、「それを二つに分けて積み重ね、朝まで門の入り口に置いておけ」と命じた。

10:9 朝になるとエフーは出て行き、立ってすべての民に言った。「あなたたちに罪はない。聞きなさい。私が主君に対して謀反を起こして、彼を殺したのだ。しかし、これらの者を皆殺しにしたのはだれか。」

10:10 だから知れ。【主】がアハブの家について告げられた【主】のことばは一つも地に落ちないことを。【主】は、そのしもべエリヤによってお告げになったことをなされたのだ。」

10:11 エフーは、アハブの家に属する者でイズレエルに残っていたすべての者、身分の高い者、親しい者、その祭司たちをみな打ち殺し、一人も生き残る者がいないまでにした。

列王 I には「^{19:16} また、ニムシの子エフーに油をそそいで、イスラエルの王とせよ。…^{19:17} ハザエルの剣をのがれる者をエフーが殺し…」とあります。一見エフーが悪者を懲らしめる良い王のようですが、実際は悪の道を歩んだ王でしたし、その王位も王殺しで手に入れたのでした。

彼は「エリヤによってお告げになったこと」として、王とその子どもたちを殺したと主張しますが、神は決して彼に命じたものではありません。彼の非道な心を知って、そのように予見された上で、それをういられたのです。

自分の行動が神に用いられたからといって、自分が正当化されるとは限りません。常に主に聞いて、良い動機でみこころを行いましょう。列王 I には「^{19:16} また、ニムシの子エフーに油をそそいで、イスラエルの王とせ

よ。…^{19:17} ハザエルの剣をのがれる者をエフーが殺し…」とあります。一見エフーが悪者を懲らしめる良い王のようですが、実際は悪の道を歩んだ王でしたし、その王位も王殺しで手に入れたのでした。

彼は「エリヤによってお告げになったこと」として、王とその子どもたちを殺したと主張しますが、神は決して彼に命じたものではありません。彼の非道な心を知って、そのように予見された上で、それをういられたのです。

自分の行動が神に用いられたからといって、自分が正当化されるとは限りません。常に主に聞いて、良い動機でみこころを行いましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

